

薬草園だより

《令和1年12月号》

2019.12.2

薬用植物園

愛草会 作成



エキナセア

エキナセアはキク科の多年草です。草丈は30-100cm、北アメリカを原産とする植物で、6月中旬-8月にかけて開花します。エキナセアは見た目がトゲトゲと可愛らしいハリネズミに似ているため、ギリシャ語でハリネズミを意味する「echinos(エキノス)」がラテン名の由来といわれます。日本名ではムラサキバレンギクと呼ばれます。北アメリカ先住民の間で何百年にも渡り重用されてきた植物で、別名「インディアンのハーブ」とも呼ばれています。欧州では免疫力を高めるとされ、風邪やインフルエンザの予防に活用されています。

セイヨウオトギリソウはオトギリソウ科の多年草です。草丈は30-60cm、ヨーロッパ南部原産の植物で、夏期に黄色の綺麗な花を咲かせます。花や葉を擦ると出る赤い汁がキリスト教の聖ヨハネが斬首された時の血の色を象徴するとされています。また、聖ヨハネの誕生日6月24日までに花が咲くため、英語ではセントジョンズワートと呼ばれます。現在、うつ状態の改善や更年期障害などの精神症状の改を目的としたサプリメントとして広く用いられています。



セイヨウオトギリソウ



チョウセンアサガオ

チョウセンアサガオはナス科の一年草です。草丈は10-15cm、南アジア原産の植物で、夏から秋にかけて白いラッパ様の花を咲かせます。有毒植物で覚醒剤に似た作用を持ちます。根をゴボウと、つぼみをオクラと間違え、あるいはチョウセンアサガオを接木として育てたナスを食べて中毒症状を引き起こす事例が数多く報告されています。一方、薬としての応用は、古くから麻酔効果が知られ、華岡青洲が考案した漢方麻酔薬「通仙散」にも配合されました。このことをきっかけに日本麻酔科学会のシンボルマークに使われています。

181132 水間 美里可

191048 古藤 芳晨

薬草園 設楽 満希

191007 荒井 晴葵

191049 小林 一真

園長 榊原 巖

191039 菅野 佑太

191082 長澤 辰乃良